



2023 年 5 月 18 日発行

第6回オーストラリア研修 4年ぶり開催

◇期 日:令和5年3月4日(土)~12日(日)

◇場 所:オーストラリア ニューサウスウェールズ州コフスハーバー

パートナー校 セント・ジョンポールカレッジ

◇参加者:本校1・2学年生徒 20名(1学年6名、2学年14名)

新型コロナウイルス感染症流行のために、令和2年の第5回の研修が出発直前に中止となって以来、今回4年ぶりにこの研修が開催された。事前研修が進むにつれて研修への期待が大きくなっていった。

研修初日、羽田空港の第3ターミナルでも積極的に外国人にコミュニケーションをとるメンバーの様子からは、これから始まる研修へ意気込みがひしひしと伝わってきた。

長時間のフライトでシドニーに到着後、さらに1時間のフライトでコフスハーバーに到着した。空港内では、窓ガラス越しに私たちの名前を書いたカラフルな紙が見え、緊張が一気にほぐれた。出口では大勢のホストファミリーがとてもあたたかく私たちを



迎え入れてくれ、感激の中で研修が始まった。

6日(月)は、セント・ジョンポールカレッジで朝のホームルームに参加した後、グループ研究を発表

した。大勢の現地校生徒に問いかけたり、歌を歌ったりしながらプレゼンテーションを行い、大いに盛り上がった。休憩時間にも、彼らは私たちの周りに集まってきてくれ、私たちの顔には自然と笑顔が溢れてきた。

7日(火)は、パディと共にドリゴ国立公園で研修を行った。熱帯雨林独特の植生は一見立山の室堂とそっくりで驚いたが、大変興味深い発見が数多くあった。



8日(水)には、朝の全校集会で書道パフォーマンスと3種類のダンスを披露した。約1100人が入った体育館は熱狂に包まれた。その後、ドルフィンマリコンサベーションセンターに移動して研修を受け、海洋生物の観察や環境問題への理解を深めた。午後からは、サザンクロス大学の研究員と共に海岸での海洋生物の調査を行った。英語での説明を聞きながら、研究員が実際に使っている道具を用いて、同じ方法で調査を行った。夜には、先住民アボリジニーのガイドの方とともにマトンバードの観察を行った。

9日(木)には、サザンクロス大学のナショナルマリコンセンターで、環境問題に関する講義を聞いて実験を行い、岩場で海洋調査を行った。

現地校で過ごす最終日の10日(金)は、パディとともに一日

授業を受け、夕方のフェアウェルパーティーでは現地での研究成果を発表した。みんなが自分の言葉で感謝の気持ちを伝えており、この1週間で英語での発信力が向上したことがわかった。現地生徒によるバンドの生演奏があり、開放的な雰囲気の中で寿司やからあげなどの日本料理を食べながら、ホストファミリーとの会話を楽しんだ。

11日(土)の朝にコフスハーバーを出発しシドニーへ向かった。空港では何度も別れの言葉を交わし、それぞれに別れを惜しんだ。充実した時間を過ごせたことを実感した。シドニーのメイン通りでは、様々な人種が行き交い、人の多さと建物の大きさに圧倒され、世界有数の都市のエネルギーを実感した。

わずか7日間の滞在だったが、さまざまな異文化を体験し、同時に多くの共通点を見つけることができた。日に日に現地になじみ、研修を通して様々なことに自信をつけた。この経験を糧に、今後ますます活躍していきたいと思う。この研修に関する多くの方々のサポートに感謝する。

第12回科学の甲子園全国大会参加報告

◇期 日:令和5年3月17日(金)~19日(日)

◇場 所:つくば国際会議場・つくばカピオ(茨城県つくば市)

◇参加者:2年生6名・1年生2名

2年ぶりに全国の代表校が一堂に会して開催された本大会では、全国の科学好きの高校生が4つの競技で科学に関する知識や技術・発想力を競い合った。

「筆記競技」や「実技競技②」では、化学の問題が英文で出題されたり、顕微鏡を自作して生物を観察するという物理と生物の融合的な課題であったりと、教科・科目の枠を超えた総合的な力が問われ、悪戦苦闘した。

また、事前公開競技である「おかえりフックン船長 マイコン制御によるサンプルリターンカート」と名付けられた「実技競技③」では、その場でカートを作成して競技に臨む例年のスタイルとは違い、各校から持ち寄ったカートを本番のコースで走らせるという方式で行われた。本番は各校での試作段階と磁気や方位などが異なる過酷な状況で、参加者は試行錯誤しながら思い思いにカートを走らせ、あちこちで懸命に課題に解決に取り組んでいた。



今回、「実技競技②」「実技競技③」では十分な力を出し切れたとは言えないが、「実技競技①」では6位、「筆記競技」では9位の成果を挙げる事ができた。

この科学の甲子園への出場を通して得られた経験は、今後最先端の研究や企業における開発といった分野に進む私たちの大きな財産となり、視野を広げるきっかけになると思う。

「ウェルビーイング」の向上を目指して

2年普通科 SS探究IIオリエンテーション報告

◇期 日:令和5年4月12日(水)第2限

◇場 所:本校至誠ホール

◇参加者:2年普通科生徒198名、授業担当の先生方

2年普通科の探究活動であるSS探究IIの、今年の学年テーマは「「ウェルビーイング」の向上を目指して」である。「ウェルビーイング」は富山県の掲げる成長戦略のビジョンだ。2月には県庁のウェルビーイング推進課の方から基調講話を聞き、準備を進めてきた。

オリエンテーションでは、まず理数科学科主任の岩崎先生から、SSH事業や探究活動の意義や目的の説明を聞き、次に人文社会科学科主任の阿部先生から探究活動のキーワードや探究係の仕事の説明を受けた。各ホーム担当の先生方の紹介後に、2学年主任の上村先生から発表された各ホームのテーマは次の通り。

- 1H 仕事
- 2H 子育て
- 3H 健康
- 4H 食
- 5H 地域交通

オリエンテーションの後は、ホームごとに班分けや、調査内容について意見交換をした。

今年の活動では県庁をはじめとした校外の機関や大学の先生など、外部との連携もたくさん企画されている。さっそく4月15日(土)には株式会社TR2の中崎洋一氏から「ロゲイニングでウェルビーイング」という講演も聞いた。楽しんで探究活動に取り組みたいと考えている。



「探究はゴールのない探検だ」

2年探究科学科 SS発展探究オリエンテーション報告

◇期 日:令和5年4月14日(金)第5限

◇場 所:本校第一体育館

◇参加者:2年探究科学科生徒80名、授業担当の先生方

探究活動の中核をなす2年生のSS発展探究がいよいよ始まる。1年次のSS基幹探究で身につけた「探究力」を更に伸ばしていく。大学の先生方からも支援を受けて、専門性の高い研究に取り組むことになる。

オリエンテーションでは、まず理数科学科主任の岩崎先生から、SSH事業や探究活動の意義や目的の説明のあと、「探究はゴールのない探検だ」という言葉を聞き、考え続け、楽しみながら活動することが大切だという激励を受けた。次に人文社会科学科主任の阿部先生から今後の活動の



予定や、ルーブリックを用いた評価と、自分たちの活動の振り返りに用いるセルフ・アセスメントの説明を受けた。最後には学年主任の上村先生から激励があった。

オリエンテーションの後は、理数科学科は数学・物理・化学・生物、人文社会科学科は英語・国語・地歴公民の各ゼミに分かれ、春休みに作成した準備レポートを持ち寄って、班のテーマ決定に向けて活発に意見を交わした。

今年は新型コロナウイルス感染症による制限も特に設けられないと聞いているので、日頃の活動だけでなく12月に行われる富山高校・高岡高校を交えた三校合同発表会や、本校SS部の発表と同時に開催される課題研究発表会にもコロナ禍前のような活気が戻って来ることを大いに期待している。

探究活動スタート！

1年探究科学科 SS基幹探究オリエンテーション報告

◇期 日:令和5年4月20日(木)第6限

◇場 所:本校至誠ホール

◇参加者:1年探究科学科生徒81名、授業担当の先生方



SS基幹探究のオリエンテーションが実施され、探究科学科やSSH、基幹探究の授業についての話を聞いた。その後、数学、理科、英語、国語、地歴の各授業担当の先生から、探究基礎Iの授業内容と準備等について説明を受けた。

最後に、学年主任の相山先生から大学での探究活動につながるように、積極的に取り組んでほしい、また二兎も三兎も追いかけて貪欲に活動し、ものごとの本質を見極められるように成長してほしいと激励をうけた。

今年から基幹探究の授業は週2時間になるが、81人の生徒が5つのグループに分かれ、1学期の間は、今後の探究活動に必要な「読み解く力」を育むための探究基礎Iに取り組んでいく予定だ。



今後の行事予定

- 5月22日(月) 2学年SS講演会
(理数科学科・普通科理系)
- 5月27日(土) サイエンスアカデミー 中学3年生コース
- 5月29日(月) 2学年人文社会講演会
(人文社会科学科・普通科文系)
- 6月7日(水) 3学年SS発展探究発表会
- 6月10日(土) サイエンスアカデミー 中学3年生コース
- 6月16日(金) 2年探究科学科課題研究指導

記事の詳細は、本校ホームページをご覧ください

www.chubu-h.tym.ed.jp